

高知ファミリークリニック開院 10 周年および BFH 認定記念講演会を開催しました

## ●多くの産科医・小児科医が出席されました

細川 志乃（助）高知ファミリークリニック

今年、当院は開院 10 周年を迎えました。その節目に「赤ちゃんにやさしい病院」の認定を受け、1 月 11 日吉永宗義先生、永山美千子先生を講師にお招きし、「ザクラウンパレス新阪急高知」において『高知ファミリークリニック開院 10 周年および「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」認定記念講演会』・懇親会を開催いたしました。

高知大学医学部産科婦人科学講座前田長正教授、同小児思春期医学講座藤枝幹也教授に各講演の座長をお願いいたしました。当日は高知県内の医療センターや大学病院などの総合病院、あるいは産婦人科・小児科診療所から医師 26 名、看護職（看護学校教員を含む）40 名の参加をいただき、当院スタッフ 14 名を含め計 80 名の講演会出席がありました。

講演会ではまず福永院長が、「母乳育児支援は単に母乳率のアップを目指すものではなく、豊かな母子相互作用・母性の形成・家族の絆の深まりを図り、その結果児の健やかな成長・喜び多い育児・幸せな家族を目指すものであり、その取り組みは混合栄養、あるいは人工栄養の母子をも支援する内容である」という、当院の基本的な考え方・取組みを紹介しました。

続いて永山さんから「世界の母乳育児から日本の母乳育児をみる」と題し、世界と日本の母乳育児の違い、その社会的背景についてお話しいただきました。その中でヨーロッパでは働きながら母乳育児をしたいという母親から BFH が始まっているというお話を伺い、「母乳育児＝女性・そして赤ちゃんの権利」であるという女性たちの姿に、日本の女性とのギャップに驚いたことでした。

最後に吉永先生から「Human biology の原点としての母乳育児 - 内なる自然を守るために -」というテーマで、生物学・生態学・哲学と色々な方向から母乳育児についてご講演いただきました。そのご講演の中で、オキシトシン（＝愛情ホルモン）は皮膚でも作られる。触れられるということにヒトは心地よさを感じる。早期母子接触で母が母となり抱く喜びを感じ、児が人間になるというお話がありました。『手に包み』抱くことそれが損得なくお互いを受け入れるということ、それこそが母乳育児ではないかと感じました。そしてそれを父親が温かく包み家族が子供とともに一緒に育つ、それが母乳育児の目指すものなのではないかと思いました。

引き続き懇親会に移り、相良祐輔前高知大学学長、石黒成人高知県小児科医会会長、濱脇弘暉高知県産婦人科医会会長のご挨拶の後、和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われました。座長の両教授、高知医療センター病院長（小児科）を始め高知県の母子医療を担う医師、助産師、看護師の多数のご参加をいただきました。永山先生、吉永先生には食事する間もなく出席者にご歓談いただき、今回の講演会・懇親会が、高知の産科・小児科が一体となって母乳育児を進める大きな一歩となったのではないかと強く実感しました。

ご講演いただいた吉永先生、永山さん、ご協力いただいた前田先生、藤枝先生、ご参加いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。



吉永宗義先生



懇親会にて